

平成 27 年度第 2 回 山科区民まちづくり会議グループ別討議まとめ

【1 区民活動に対する支援(山科“きずな”支援及びやましな GOGO カフェ)】

○山科“きずな”支援について

- 支援事業を受けることで、活動団体の独自財源だけではできない活動も実施可能になり、また、一地域のみで行っていた活動が区内全域に広がるなど、活動のバージョンアップにつながっている。
- 今年度新たに実施されているまちづくりサポート講座など、まちづくり支援の包括的な支援の形が見えてきている。
- 初期費用がかかる事業もあるので、必要性を見極めたうえで、1 件の補助額を上げてはどうか。
- 空き家を活用し、まちづくり活動を支える拠点を整備してはどうか。
- それぞれの活動において、いかにして、多くの区民の方を巻き込んでいくかが課題となっている。支援団体が行う活動どうしをつなげたり、活動報告会を、“ふれあい”まつりの中で行うなど、ふれあい事業等の既存事業と連携させて実施してはどうか。

○やましな GOGO カフェについて

- 出会いや、つながりを作っていく場として重要な取組である。
- 山科“きずな”支援事業と連携するなど、出会った後の継続性を担保する必要があるのではないか。
- 毎回新たな参加者が出てきているのは望ましいことだが、一度しか参加しなかった人も多くいるのではないか。
- 新たな層の方に、参加してもらえるよう、“ふれあい”まつりの中でカフェを開催してはどうか。
- 図書館などの公共施設の中に、GOGO カフェで話し合われたことをストックする仕組みを作ってはどうか。

【2-① 福祉・健康・子育て支援（山科区健康寿命延伸プロジェクト及び子育て支援事業）】

○高齢化の現状と高齢者を対象とした来年度の施策について

- 2025年には山科区で34%が高齢者になる予想である。特に、山科区では後期高齢者が多く、高齢者のうち、3人に2人が後期高齢者となるので、10年先を見据えた取組が必要である。
- 来年度区役所では、認知症予防の目的で、男性の高齢者と孫を対象とした料理教室を実施する。
- 新聞販売所、地域包括支援センター、区役所で高齢者見守りのための協定を締結する予定である。
- 山科図書館でも高齢者の利用が意外と少なく、闘病記コーナーや時代小説コーナーを設置するなどの取組を行っている。
- 他にも、高齢者を対象として、地域では町内単位でのラジオ体操などの取組が行われている。

○今後の課題と取組の方向性について

- 特に男性は、役割がないと外に出てきにくい。地域デビューのきっかけを手助けするために、いかにして外に出ていただかが大きな課題である。
- 地域デビューを手助けするために、子どもの見守りや庭の剪定などをメニュー化してはどうか。また、食べ物を切り口にすると参加しやすいので、地域のBBQなどのお手伝いをきっかけにしてはどうか。
- 身内が近くに住んでいればよいが、そのような環境ではなく、本当に孤立している人も多い。そのような場合は、御近所さんの力が必要である。
- 子どもが地域と高齢者をつなぐキーとなる存在である。地蔵盆や小学生の行事は、地域のつながりを作っていくきっかけになるのではないか。

○子育て支援の取組について

- 子育て家庭を地域ぐるみでサポートするため、新生児が誕生した家庭に地域の民生委員等による訪問・育児相談を行う「やましなお誕生おめでとう事業」を今年度から実施している。山科は年間約1,000人の新生児が誕生しており、孤独な親には喜ばれている。

【2-② 福祉・健康・子育て支援（山科区健康寿命延伸プロジェクト及び子育て支援事業）】

○福祉施策における地域のつながりの必要性

- 健康長寿を推進していくには、福祉面からの取組だけではなくて、地域のつながりを作っていく取組など、横断的な取組が必要である。

○山科における地域のつながりの現状

- 山科は大きなマンションが多いため、隣に住んでいる人を知らないなど、同じマンションの住民でも交流する機会や場所がない。大きなマンションには交流する場と自治会が必要ではないか。
- 地域と若い世代、マンション住民とをつなぐ役割を、PTA・おやじの会、または長い間、その地域に住んでいる人に担って欲しい。
- 「まつり」を軸に新しく来た人と古くからの住民の交流を考えられないか。
- 「新しく来た人」の遠慮を緩和させるために、迎える側が環境づくりすることが必要である。

○来年度の区役所の取組について

- 社会福祉協議会で行われている高齢者向けの昼食会にも、ひきこもりがちの高齢者に来てもらうことに苦労しているので、料理教室や清水焼体験教室の孫と一緒にというターゲットの設定方法はいいアイデアである。
- 小学校に協力を依頼して参加の声掛けをしてはどうか。
- 陶芸教室で協力を得る清水焼団地や、見守りネットワークで協力を得る区内外の新聞配達業者など、地元企業に協力を得ることはいいことである。今後も民間企業に主体的に動いてもらえる仕組みを作っていくべきである。

○子どもの貧困問題について

- 現在、山科においても、給食費や保育料の未納問題など、子どもの貧困問題が表面化している。

【3-① 山科区制40周年記念事業】

○記念事業の目的について

- 記念事業の目的を、山科を知ってもらう、好きになるという2つを目的にしてはどうか。
- 特に知ってほしいのが、山科の歴史、自然、文化、伝統、文化の創造力である。
- 山科を知ってもらうことに関連して、30周年記念事業の記念誌の中で13学区会長の座談会を行った。それが、各学区の事情がよく分かるものであり、それから10年経過したので、山科を知ってもらうという点で、40周年でもそのような取組をしてはどうか。

○実行委員会以外が主催する事業について

- 区民提案型支援事業（山科“きずな”支援事業）に、40周年記念事業枠を設けるなど、区民にも、記念事業の提案をしてもらい、区や実行委員会が資金面等でバックアップする仕組を考えてはどうか。
- 区内で、民間ベースで行うイベントについては、区民に40周年を広く周知していくために、山科区のシンボルマークの下に「山科区40周年 Anniversary」という文字を付けたロゴを、イベントのチラシ等につけてもらってはどうか。

○グルメイベントについて

- 山科野菜など、テーマを絞った方がよりよいのではないか。
- 山科義士祭りなど、既存のイベントとコラボして実施した方が、集客につながるのではないか。
- 露天商でない飲食店にも出店してもらえる仕組みを考えてはどうか。

【3-② 山科区制40周年記念事業】

○記念事業の目的について

- 楽しそうなイベントが揃っているが、自分たちがどうやって関わっていくかイメージが湧かないで、区民が主体的に関わることで、40周年をきっかけに山科のまちづくりを進化させることを目的と捉えてはどうか。

○区民からの事業提案について

- 各学区から40周年事業でやりたいことを出し合い実行する。実行委員会は広報や資金面など、区民の主体性を応援していくべき。
- 予算の規模=イベントの規模ではなく、多くの区民が参加することでイベントが盛り上がっていくようにしてはどうか。

例えば、光のイベントであれば、軒先にぶら下がっているもてなすくんのよう各々や空家で光のアートをぶら下げる。花いっぱいプロジェクトであれば、植樹した植木鉢の横にベンチを置いて休息・交流できたり、水やりなどの手入れを近隣住民やこどもがおこうなど、区民全員の参加により、光や花が拡がる仕組みをつくる。区民の主体的な動きをどうやって応援していくかが課題。

○記念事業の効果について

- 山科は京都の東の玄関口なので、山科が花や光で盛り上がれば、山科区内外の人にとって山科を再発見する機会になるのではないか。

【4 第2期山科区基本計画の実施状況に係る取組の評価について】

○基本計画の課題について

- 計画そのものを知らない区民も多い。計画を多くの区民に知ってもらったり、興味を持ってもらう手法を考えるべき。
- 計画策定当時と事情が変わっていることもあるので、計画に、今の各種団体の課題などを盛り込んではどうか。
- 山科の歴史を把握したうえで、計画の推進に取り組む必要がある。
- 評価することが目的ではないので、山科をよくするための計画の推進方法を議論したり考えていくべき。

○基本計画評価の課題について

- 点数や実績報告と、現状との乖離がある。

○区民アンケートの方法の検討

- 50の項目は多い。全ての施策を網羅的に聞くのではなく、重点項目に絞って聞いてはどうか。
- 計画の存在を知っているかという質問を設けたり、項目の取組を「知らない」という評価項目を設けてはどうか。
- 文章だけでは評価しにくい。実際に現状を目で見てみる必要がある。
- 専門家の意見を聞いたり、経験の有無を事前に伺って傾斜配点をするなどの工夫をしてはどうか。

○区民アンケート以外の評価方法の検討

- 各種団体への意見聴取を行ってはどうか。
- 学生と行政が話す場所を作ってはどうか。